



上／玄関ホール。大きな収納ですっきりと。  
中／階段下の空間に竹を通しコート掛けに。  
下／客間を兼ねた和室。障子を照明に利用。

**東京の家に愛知の工務店で？**

昨年10月、世田谷区内の閑静な住宅地に山田さん夫妻の新居が完成した。ご主人はこの地で生まれ育ち、ご両親も隣にお住まいだ。結婚後、二人は祖父母が若い頃に建てた平屋でしばらく生活したが、このたび新築することに。どんな住まいを望んだのかご主人にうかがった。

「家をつくるのは初めてなので、まず住宅展示場へ行ったら、木造の和のつくりの家が落ち着いた。昔の家に慣れていたせいでしょうか」

設計は前田智巳さんをお願いした。ご主人の父上と旧知の間柄で家族ともども親しい建築家だ。施工はどこにしたらと相談された前田さんは、高蔵を紹介。かねてより同社の田立昌人社長の家づくりにかける思いを知っていたため、自然に名前が浮かんだという。ただ、高蔵は愛知県春日井市に本社、岐阜県中津川市に加工場と職方の住まいがある。東京から遠いが、問題はなかったのか。

「距離のハンデを上回る面倒見の良さやネットワークの軽さが高蔵さんにはある。山田さんにも初対面



古い平屋を建て替えることが決まり住まい手が、パートナーに選んだのは、愛知県を拠とする工務店。木曾川水系の材を用い、職方が腕を振るって木の香る居心地のいい家が生まれた。どこよりも落ち着くと、夫妻は笑みを交わす。

首都圏で建てる 本物の木の家

裏木曾の材が  
随所に使われ  
職方の技が冴える  
東京の家

愛知県 高蔵

【事例】コウメの家

写真 ● 垂見孔士 文 ● 角丸泰子



上／玄関側より2階を見上げる。右／愛犬の小梅。左／玄関側よりダイニングを見る。テーブルも高蔵でつくった。カウンターを挟んでキッチン、右の引き戸の先に洗面室がある。





階段ホール。小梅が棧の間から顔を出し、1階の夫妻の様子をうかがう。



2階の居間。造り付けのデスクが隅にあり、ご主人の書齋の役も果たす。



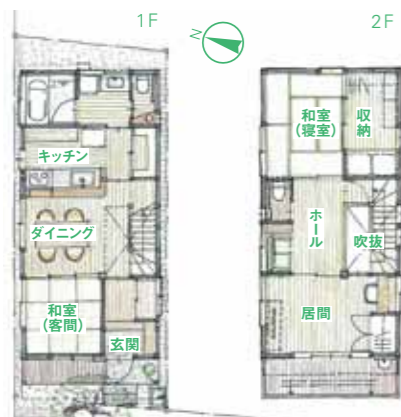
高い勾配天井は開放感にあふれ、木組みを眺めていると飽きないという。梁の上部は空間を抜いた。



ホールの一角にソファを置いて読書や音楽を楽しむ。リラックスできる。



外観は和の趣。メンテナンスの容易さを重視してサイディングにした。



右から山田さん夫妻と小梅、ご両親、高蔵の田立社長、設計者の前田さん。話が尽きない。

**DATA**

- 所在地：東京都世田谷区
- 家族構成：夫婦+犬+ウサギ
- 延床面積：85.92㎡（1階44.06㎡ 2階41.86㎡）
- 敷地面積：88.66㎡
- 竣工：2011年10月（工期2011年6月～10月）
- 設計：株式会社高蔵 TEL03-5791-4930
- 施工：（有）高蔵
- 構造形式：木造在来軸組構法
- 主な外部仕上げ：屋根／ガルバリウム鋼板タテ平葺き 外壁／防火サイディング
- 主な内部仕上げ：天井／1階踏み天井：岐阜美山杉、2階：岐阜美山杉羽目板 壁／PB下地漆喰塗り、洗面：サワラ羽目板 1階床／和室：畳 ダイニング：岐阜美山杉フローリング キッチン、洗面：岐阜栗フローリング 便所：ケヤキフローリング 2階床／和室：畳 ホール、リビング、納戸：岐阜美山杉フローリング 便所：岐阜栗フローリング
- 施工費：2,500万円



上／職人による手づくりキッチン。カウンターはサクラ、床はクリのフローリング（洗面室も同じ）。右／高蔵がつくったお箸セット。下／洗面室。壁にサワラを張った。手前が浴室でこちらはコウヤマキ。「愛着がもてて、触りたくなる。床も磨いていますよ」と奥さま。



それが伝わり、意気投合されました」と前田さん。田立社長も横でうなずく。

「私たちは、各地に向向いて仕事をする『産直住宅』を長く手がけており、遠いのは苦になりません。むしろ、地元である裏木曾の材を使って都で家が建てられると、奮い立ちました」

こうして、東京の設計者と愛知の工務店がタッグを組んでの家づくりがスタート。打ち合わせに時間を惜しまず、大工をはじめ職人が集り上京してからは作業がスムーズに進んだ。

くれたの感激でした。近所にもおすそ分けしたけど、今日び、こちらではしませんから」

自ら現場監督を買って出た父上が、その日を振り返って目を細めた。

**若い夫妻と、愛娘が日々を過ごす**

材は、構造材が東濃ひのきと杉。裏木曾、すなわち木曾川水系の山で育った木である。それらをふんだんに用い、地域に継承された職方の技を活かしてつくるのが「高蔵の家」。

田立社長はこう言って胸を張る。ほかに、エンジン、コウヤマキ、サワラ、クリ、サクラなどを仕上げ材や造作材に。さらに、古い家にあつた障子やガラスを建具などの装飾と

して魅せさせたことも、住まい手喜ばせた。

施工前に同社の加工場を訪れた一家は、年輪がきれいに入った材にこれなら間違いないと確信した。実際に暮らし始めたら、美しいのに加え、肌触りがやさしく温かいのに驚いたそう。夫妻は多少アレルギーがあるが、症状もまったく出ない。

さて、新居の通称は「コウメの家」。愛娘ともいべきフレンチブルドッグの小梅が元気に走り回る家に、と考えたことが由来と奥さまが笑う。

「あと、二人ともシンブルが好きなので細かく仕切らないようにとも伝えました。圧迫感がなく、のびのび暮らしています」

1階はLDKと和室、2階は階

段ホールを中心に居間と寝室があるが、いずれも空間はひとつながり。階段回りのスペースを大きくとったことが功を奏し、上下階の間でも気配が感じられる。

夕食がすむと夫妻は2階へ。小梅の相手をしたり、くつろいで過ごす。以前は一緒に居酒屋へ寄ることもあったが、最近は家での晩酌が習慣に。居心地がいいから、休日に外出する回数もぐんと減ったかなと顔を見合わせた。

「前田さんと田立さんはもちろん、職方の皆さんも誠心誠意やってくださって、予想以上の家ができました。どなたもいい笑顔だったねえ」

父上が、しみじみとした口調で結んだ。

